2024年モクティ倶楽部植林地　殿上山

FSC®認証林を訪ねて

1

震災を乗り越える共生の概念が選んだFSC

Report

福島県・本宮市

一般社団法人モクティ倶楽部

Message from the FM *Certificate Holder*

一般社団法人モクティ代表理事
根本昌明さん

３年だけ力を貸してほしい・・。
芽が出なければやめるから。
同級生の仲間と約束して始めたあの時から
5年が経つ。
福島で地道に蒔いてきた種が芽吹き、今、大きく花開こうとしている。2023年にFSC-FM認証取得したモクティ倶楽部を取材した。

＜写真・文章：文月恵理＞

震災を乗り越える共生の概念が選んだＦＳＣ

モクティ倶楽部が事務局を置く本宮（もとみや）市は福島県の中通りにあり、古くから奥州街道の宿場町として栄えたところだ。福島県の経済中心都市で新幹線の駅もある郡山市に接し、都内からは新幹線と車で１・５～２時間という交通の便の良い地域である。モクティ倶楽部の認証林は、本宮市に隣接する田村市、滝桜で有名な三春町、そして会津地方の南会津町、太平洋側のいわき市の4地域に分散している。

「一人では放射能汚染の風評被害に立ち向かえない。」モクティ倶楽部のＦＳＣ認証取得は、一人の会社社長の悲痛に満ちた確信からスタートした。２０１２年当時、死者の霊を慰める京都の大文字焼にと提供された岩手の薪から放射性物質が検出され、使用が中止される出来事があった。これをきっかけに社会に不安が広がり、食べ物だけでなく木材製品まで、例え検査済みで問題の無い商品であっても、福島産というだけで忌避される傾向が強まったと言う。モクティ倶楽部の創始者で、地域材を使った木工製品を手掛ける株式会社光大（こうだい）の根本昌明社長は、その危機を乗り越える奮闘の中で、「多くの人と手を携えて生きる共生の概念を、震災が教えてくれた」と語る。

福島には震災復興のため多額の予算が下り、多くの企業も進出して、一見すると順調に復興が進んでいるように見える。しかし実態は県外の企業に利益を持って行かれ、地元を潤す企業が育っていない、そう根本社長は感じていたそうだ。山には再造林されない伐採跡地が目に付くようになり、何とかしなければという危機感から改めて思い起こしたのが、「共生」の概念とそれを支える仕組みとしてのＦＳＣだった。根本元社長は県内の森林組合や林産事業者にＦＳＣ認証の取得を呼びかけ、賛同した人々が粘り強く取り組んだ結果、２０２４年８月１５日、南会津森林組合・田村森林組合の管轄地を中心とした約４８００ヘクタールで、ＦＭのグループ認証を取得することができた。

欧米を周って気づいたＦＳＣの価値

根本社長がＦＳＣを知ったのは、１９９６年に木工品の生産

委託を始めた中国の吉林省で、２０００年以降、ＣＯＣ認証の取得がブームになったのがきっかけだった。当時の中国では、欧米への輸出に欠かせないものとして認証取得の動きが強まっていたのだ。その後、２００５年に郡山で開催されたＦＳＣセミナーに参加した根本社長は感銘を受け、福島の自社工場でＣＯＣ認証を取得した。しかし国内にＦＭの認証林は少なく、ＦＳＣラベルの付いた製品を作るには、岐阜や天竜など遠方から認証材を取り寄せる必要がある。運送コストの負担も重なって製品はコスト高に。会社の経理担当からは、認証は社長の道楽だと呆れられていたそうだ。

しかし震災後、新たな販路を求めてアメリカやドイツを単身訪れ、無我夢中で売り先を開拓していた根本社長は、ＦＳＣの価値に改めて気づいたと言う。環境負荷の低減を謳う製品や、持続可能な森林経営を行う森の木材を使った商品であることを証明するエコラベル、それが無ければ製品を見てもらうことすらできない。エシカル消費（地域の活性化や雇用などを含む、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動）に対する一定の需要が存在する欧米では、製品の

価格よりもその背後にあるストーリーを重視する人々がいて、光大が作るＦＳＣ認証の木工品は徐々に受け入れられ、輸出されるようになっていった。

発明家社長が辿り着いた答え

「モクティ倶楽部」

光大の根本社長は発明家で、必要なものが手元に無いと感じたら自分で作ってしまう。ヒノキからオイルだけでなく消臭剤に仕える液体を抽出する装置、木材の両側が綺麗にカットできるよう独自の工夫を施した加工機、セルロースから作った繊維や、従来よりも薄い住宅用断熱材など、発明は今も継続中だ。そんな根本社長が、地域の森を、より多くの人々の力を集めて将来世代に繋いでいく存在として生み出したのが、「一般社団法人モクティ倶楽部」である。

会員の会費と、賛同する企業によって開発・加工されたエシカル商品の売り上げの１％を伐採後の森林の再造林と育林活動に結びつけることを目的として運営され、ＦＳＣ認証に関わる事務局の機能も担っている。

「森と木にまつわる小さな力を結集できる磁石のような組織」という説明には、人々の地域への思い、森への願い、未来への祈り、といった小さな志が、集まればきっと大きな力になるという希望が込められていると言えるだろう。

力を合わせて乗り越えた認証取得の高いハードル

「正直、ＦＳＣの認証に必要な書類の種類や量は、他の認証とはけた違いでした。」モクティ倶楽部の理事でもある合同会社ＳＣＯＰ代表の松澤氏はそう振り返った。以前、ＳＧＥＣの認証を取得した経験があり、それが役立った部分もあったが、申請手続きの大変さは比較にならないそうだ。ＦＳＣは、これさえやればよいという単純なマニュアルが存在しないため、示された基準や指針が守られているのか、それを示す資料は何かなど、かなり悩まされたということのようだ。

更に、田村森林組合の村上技術補はこう続けた。「ＦＳＣの基準に沿ったルールや作業手順、その必要性を現場の人たちに理解してもらうのは、本当に大変でした。」現在では、オイル缶の下にシートを敷くといった環境への配慮、労働安全に関するルールの遵守など、現場では当然のように実施されていて、作業者が負担に感じることはほとんど無いようだ。伐採班の人達もみな表情は明るく、たたき上げの矢吹組合長の細かな指摘にも真剣に耳を傾けていた。

田村森林組合では現在、組合の敷地を拡げて、そこに新たな製材工場を建設中だ。１９９７年に竣工した現在のウッドミル田村（田村木材加工センター）の約４倍、年間４万㎥の原木を受け入れる予定で、ＦＭとＣＯ

Cの両方を取得する組織として、来るべきＦＳＣ認証材の需要増に応え、普及に貢献する施設になっていくことが期待されている。

森の恵みを分かち合う仕事

モクティ倶楽部を立ち上げた根本社長のモットーは、誠実な行動で社会に貢献すること。地域や地球に尽くすこともその経営方針のひとつだ。その表れとも言えるのが授産施設で働く障碍者に、ＦＳＣの薪の箱詰めを委託する仕事である。田村森林組合から仕入れた薪を、ダンボール箱に丁寧に詰め、５キロになるよう重さを測って封入する作業だ。近年のキャンプブームもあり、薪はホームセンターなどで堅実な需要がある。一人一人の障碍特性に合わせてきめ細かく作業を指示し、休憩室でも他人と顔を合わせたくない人がリラックスできるように席を配置するなど、働きやすさに配慮している。

製品にＦＳＣのラベルを入れるには、認証を受けた森林から、認証を取得した事業者のみの手を経て伐採・運搬・加工される必要がある。光大の本社工場では、これまで遠方のＦＭから取り寄せていたスギやヒノキを、モクティ倶楽部の認証取得によって近隣から調達できるようになり、採算性が向上した。十数人の工場で７６０品目という驚きの少量多品種生産を支えているのは、作業場所ごとに設置されたタブレットに表示される生産指示である。工場内部は整理整頓が行き届き、働く方々の表情は明るく、訪問者に対して心からの笑顔で挨拶してくれる。森森を活かし、森の恵みを分かち合う仕事をしているという誇りと喜びが、彼らの表情を輝かせているのかもしれない。

福島の未来に向けた森づくりへ

「将来的にはＦＳＣ認証林を５万ヘクタールまで増やしたい。」根本社長はそう語っている。福島県の森林面積は約９７万２千ヘクタールそのうち民有林は５６万４千ヘクタール、そのおよそ約１０％まで拡大しようと言うのだ。簡単な事ではないが、賛同者を着実に増やしていけば、近い将来に到達できるに違いない。

根本社長の夢はそれだけに留まらない。ふくしまのＦＭ認証林の付加価値を高め再造林のエシカル消費循環の輪を拡大させ再造林を推進する為に「福島の木材で作るパルプやセルロースを様々な製品に加工する企業を集め、森の中に木質コンビナートを作る。そして働く人だけでなく、地域の住民が利用し、自然に交流し合える施設に育てていきたい。」と言う。今はまだ構想段階だが、行政をはじめ多くの人の関心を集め実現に向けて動き出しているようだ。

モクティ倶楽部では、会費と寄付更に会員企業の賦課金を再造林費用に充てて、毎年植樹イベントを実施している。２０２５年6月には、２３０名もの参加者が、伐採跡地に３００本ずつの桜と紅葉、１０本のコブシの木を植えた。それらはすくすくと成長しており、１０年後には花見と紅葉狩りの名所になるだろうと、関係者は大きな期待を寄せている。雄大な福島の山並みを望むその斜面には、自分の手で植えた苗の成長を喜ぶ人たちが集い、その子供や孫にも、森を自らの手で守るためにできること、ＦＳＣの意義と価値とを伝えてくれる、貴重な機会になることだろう。

Profile

お問い合わせ先
〒969-1111福島県本宮市本宮字作田台68-1
株式会社光大　モクティ倶楽部
担当：根本昌明
TEL: 0243-33-5381　FAX: 0243-33-6780
URL:https://www.mokuty.com/
info@mokuty.com